

ALC 令和3年度事業概要

アートリエゾンセンターは、「I 音楽教育支援活動」、「II 福祉と子育て支援事業」、「III 芸術によるまちづくり事業」の3本を柱に、芸術文化事業を展開しています。

I 音楽教育支援活動

足立区内のこども園、小学校、中学校といった教育現場を対象として、東京藝術大学の卒業生を中心とした演奏家を派遣し、訪問型の音楽教育支援活動を行っている。子どもたちの文化芸術に対する関心を高め、豊かで健全な育ちに寄与することを目的としている。

事業内容

- 洋楽／邦楽の音楽鑑賞会
- 音楽科授業等の補助
- 部活動指導補助
- 教員研修会

研究分担者

佐野 靖（音楽学部教授）

〈邦楽系事業 p.11〉



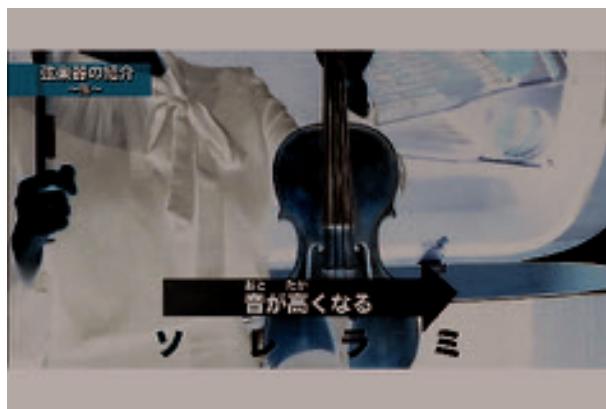
〈洋楽系事業 p.12〉



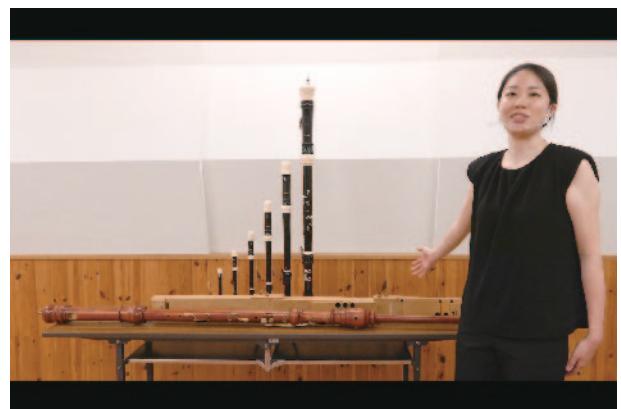
〈金管バンド・吹奏楽の演奏指導 p.13〉



〈映像コンテンツの提供 p.14〉



〈教員研修 p.15〉



I. 音樂教育支援活動

目的・概要／令和3年度の成果と課題

実施の目的と概要

「音楽教育支援活動」の目的は、「足立区立の小学校や中学校、こども園等において音楽教育支援を行うことを通じて、音楽技能の向上と文化芸術への関心を高め、子どもたちの豊かで健全な育ちに寄与すること」である。具体的には、東京藝術大学出身の若手演奏家や大学院生などを活用し、学校及びこども園の先生方と協働しながら、邦楽系や洋楽系のコンサートやワークショップ、部活動や課外活動の指導補助、音楽科授業等の補助、教員研修会などを実施し、音楽教育に関する支援活動を展開している。

本年度は、2020年度よりはコロナウイルスの感染状況も改善するであろうと予測していたが、新たな変異株などの影響もあって、やはりコロナウイルスに翻弄される1年となった。とはいっても、子どもたちの遊びを取り巻くネット環境などは格段に進歩し、タブレット端末を活用した取り組みも積極的に導入されるようになった。前年度いろいろ試行錯誤してきた本プロジェクトも、対面のコンサートや楽器指導を増やしつつ、映像コンテンツやICTを活用した取り組みを併用するなど、2020年度からの経験を生かし、新たな可能性を踏み出すことができたと考える。

本年度のプロジェクトは、対面実施と映像コンテンツ利用を合わせ、計43件（教員研修を含む）の活動を支援した。その内訳、参加者数は以下のとおりである。

○対面での実施（23件）

邦楽系事業：4校（参加：407名）

洋楽系事業：11校（参加：2,079名）

演奏指導：8校（参加：272名）

[参加した児童・生徒・教員等の総数（概算）：2,758名]
(辞退：1校)

○映像コンテンツによる実施（19件）

鑑賞、授業等の補助：14校（対象：1,895名）

演奏指導：5校（対象：175名）

[対象となった児童・生徒・教員等の総数（概算）：2,070名]

○教員研修（1件）

小学校音楽教育研究会

なお、2021年度本プロジェクトをコーディネートしてくれたアートリエゾンセンターのスタッフは、次の3名である。

西村 翼（研究員）

杉山 まどか（教育研究助手）

長谷川 将也（教育研究助手）

以下、2021年度の活動内容の成果と課題を記すことにする。活動内容の詳細については、各項目を参照されたい。

活動内容の成果と課題

何もかもが従来とは異なる初めての試みとなった2020年度に比べ、2021年度はある程度まで「対面」のリアルタイムによるコンサートやワークショップ、演奏指導を復活させることができた。その意味では、

日常を取り戻す大きなステップとなった年度と言えるが、対面での実施は、密を避けるための様々な対策が必要となるため、学校側も演奏家、リエゾンセンタースタッフたちにとっても一層慎重な判断、行動が求められる。計画から準備、事業完了まで気を抜くことのできない日々が続いたにちがいない。この場を借りて、関係諸氏に深く感謝申し上げる。

本年度の最も大きな成果は、それぞれの立場で工夫し合いながら、各学校での取り組みを遂行できた点である。すなわち、この連携事業が、文字通り協働、共創の場となったのである。例えば、学校側は、コロナの感染状況や児童生徒の実態などを考慮しながら、実施か延期か、中止なのか、対面から映像コンテンツへの切り替えなのかなど、最後まで判断に迷う場面が続いた。年度ぎりぎりで取り下げざるを得なかった学校もあった。そのような状況の中、子どもたちが少しでも豊かな音楽体験ができるよう様々な工夫を凝らしてくれた。対面実施と映像コンテンツをうまく組み合わせた実践もあったし、コンサート会場となる体育館に人数制限のため入ることのできない子どもたちのために、中継配信を工夫した学校もあった。まさにタブレット機器普及の賜物である。学校におけるICTの急速な充実は、コロナ禍によってむしろより促進されたと言えよう。

アーティストたちにとっても、スケジュールが不安定なままの日々が続くなど、苦労の多い1年であったことはまちがいない。ただ、様々なツールを活用して配信したり、これまでにはない演奏形態に挑戦したり、徹底的に自分のレパートリーを増やしたりするなど、一人一人が音楽と向き合い、自問自答しながら自分なりのスタイルを求めて試行錯誤する期間でもあった。そうした期間があったからこそ、対面で子どもたちと交流できる場が戻ってきたことは、彼らにとって望外の喜びであるし、コロナ禍の前と今とでは、子どもたちとの関わり方もちがってきていると思われる。それは、子どもたちとの距離の取り方、演奏空間の使い方の工夫などからも見て取れる。演奏表現を受け止めてくれる人がいることへの感謝の表れでもある。

そんなアーティストたちと学校をつなぐセンターのスタッフたちにとっても、決して楽な1年でなかつたことは確かである。実施ぎりぎりまで学校やアーティストと連絡を取り合いながら、対面から映像コンテンツへの切り替えやキャンセルに関する対応など、これまでに経験のない業務をチームワークで乗り切ってくれた。

アーティストとスタッフの尽力の結果、映像コンテンツのクオリティも高まり、情報の発信・配信に関するスキルも向上した。来年度以降、仮に対面実施にすべて戻ったとしても、この2年間で蓄積できた貴重な音楽・映像データ資料は、足立区と藝大にとって共有の「財産」として、有効に活用していきたいと考えている。そのためには、学校の年間指導計画にある程度即した流れで、その時期に適切な音楽・映像データ資料を配布するという観点も必要となる。今年度の教員研修でリコーダーを取り上げたが、すでにリコーダー

導入期は終わっており、来年度以降は、指導計画に完全に重ね合わせることは難しくても、学校側とも情報を共有し、複数のコンテンツをうまくローテーションしながら、より学校側の希望に沿うような提供を工夫したい。来年度に向けての課題である。

もう一点は、学校での対面（ライブ）でのコンサートや指導を録画し、オンデマンドで視聴することに関してである。校内での一時的かつ限定的な利用目的であれば、写真記録に準じる形で制限はかけていないが、様々な権利関係のクリアが必要なケースもあり、今後検討を続けていきたい。

コロナの状況は先が読めないが、小・中学校の教育活動はすでに日常に近いものに戻っているし、最も遅れていた大学も、来年度からは実技レッスンだけでなく、講義系の授業も多くが基本対面となる。本プロジェクトのコンサートやワークショップ、様々な指導も対面での実施が可能となろう。その際も、感染予防対策は緩めず、かつ映像コンテンツやICTを有効活用し、本プロジェクトならではの新たなスタイルを構築したいと考えている。

（文：佐野 靖）

【音楽教育支援活動 実施一覧】

本年度は、「対面での実施」と「映像コンテンツによる実施」のいずれかの方式を選択して実施する形をとった。

■対面での実施

学校	内容	実施日	対象	参加人数
西新井中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/17(土)・7/19(月)・7/21(水)・7/24(土)・7/26(月)・7/27(火)・7/28(水)・7/31(土)・8/1(日)・8/2(月)	吹奏楽部	61
興本扇学園	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/19(月)・7/20(火)・7/21(水)・7/26(月)・7/29(木)・7/30(金)・8/2(月)・8/3(火)・8/4(水)	吹奏楽部	17
第六中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/26(月)・7/27(火)・7/28(水)・7/29(木)・7/30(金)	吹奏楽部	22
北鹿浜小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/27(火)	金管バンド	24
東洲江小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	7/28(水)・7/30(金)	金管バンド	61
栗原小学校	弦楽アンサンブルの鑑賞会	9/24(金)	5・6年生	138
島根小学校	打楽器アンサンブルの鑑賞会	9/30(木)	6年生	95
高野小学校	声楽アンサンブルの鑑賞会	10/4(月)	1～6年生	361
扇小学校	金管アンサンブルの鑑賞会	10/15(金)	1～6年生	333
鹿浜こども園	弦楽アンサンブルの鑑賞会	10/18(月)	4～5歳児	90
中川北小学校	雅楽の鑑賞会	10/22(金)	6年生	93
加平小学校	打楽器アンサンブルの鑑賞会	10/29(金)	3～6年生	370
加賀中学校	雅楽の鑑賞会	10/30(土)	1～3年生	210
鹿浜西小学校	打楽器アンサンブルの鑑賞会	11/1(月)	1～6年生	161
竹の塚中学校	和楽器(三味線)の授業等補助	11/4(木)	3年生	50
六月中学校	弦楽器アンサンブルの鑑賞会	11/26(金)	3年生	200
中島根小学校	打楽器アンサンブルの鑑賞会	12/2(木)	5年生	73
弘道小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	12/3(金)・12/7(火)・12/9(木)・12/10(金)・3/10(木)・3/11(金)・3/14(月)・3/17(木)・3/18(金)	吹奏楽部	33
東栗原小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	12/6(月)・12/9(木)	金管バンド	22
東綾瀬中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	12/14(火)・12/16(木)・12/18(土)・12/22(水)・12/23(木)・1/17(月)・1/19(水)・3/16(水)・3/24(木)	吹奏楽部	32
花畠第一小学校	打楽器アンサンブルの鑑賞会	1/18(火)	5・6年生	136
青井小学校	打楽器アンサンブルの鑑賞会	1/19(水)	5・6年生	122
足立入谷小学校	箏と尺八の鑑賞会	2/16(水)	5・6年生	54

■映像コンテンツによる実施

学校	内容	対象	対象人数
千寿桜堤中学校	鑑賞および授業等補助	1～3年生	501
渕江第一小学校	鑑賞および授業等補助	3～6年生	182
東綾瀬小学校	鑑賞および授業等補助	4～5年生	70
北三谷小学校	鑑賞および授業等補助	3～6年生	118
保木間小学校	鑑賞および授業等補助	2～6年生	51
足立小学校	鑑賞および授業等補助	4・6年生	101
平野小学校	鑑賞および授業等補助	4年生	86
花保小学校	鑑賞および授業等補助	3～5年生	74
鹿浜五色桜小学校	鑑賞および授業等補助	3・5・6年生	87
花畠北中学校	鑑賞および授業等補助	1～3年生	37
本木小学校	鑑賞および授業等補助	4～6年生	81
舎人第一小学校	鑑賞および授業等補助	3～6年生	165
長門小学校(※)	鑑賞および授業等補助	1～6年生	254
おおやたこども園(※)	鑑賞および授業等補助	3～5歳児	88
第七中学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	吹奏楽	26
千寿小学校	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	金管バンド	38
千寿第八小学校(※)	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	金管バンド	21
千寿常東小学校(※)	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	金管バンド	54
西保木間小学校(※)	金管バンド・吹奏楽の演奏指導	音楽クラブ	36

(※の学校およびこども園は、予定していた対面での実施が困難となったため、映像コンテンツによる実施に切り替えた。)

■教員研修（映像コンテンツによる実施）

名称	内容	対象	対象人数
小学校音楽教員研修	リコーダー指導法（基本操作と鑑賞）	足立区立小学校の音楽科教員	(70)

邦楽系事業 (鑑賞会・授業等の補助)

●パッケージA：邦楽の鑑賞会

パッケージA「邦楽の鑑賞会」は、「A-1：箏・尺八」「A-2：長唄・長唄三味線」「A-3：民謡・祭りの音楽」「A-4：その他（能楽、雅楽、日本舞踊など）」の4つのパッケージを作成した。本年度は対面形式での実施が可能になったことから、昨年度の映像コンテンツから内容を再検討し、演奏会形式でのコーディネートを行った。

本年度は、事前アンケートで「邦楽の鑑賞会」を希望する学校が例年より少なく、「A-4：その他」が2校、「A-1：箏・尺八」が1校という内訳であったが、「その他（能楽、雅楽、日本舞踊など）」のパッケージで雅楽アンサンブルを派遣するなど、鑑賞パッケージの新たな可能性を感じることができた。

「A-4：その他（雅楽）」は、雅楽演奏家3名に演奏を依頼し、雅楽三管編成（笙、簞篥、龍笛）での公演を実施した。小編成ながらも雅楽の魅力に触れる内容になった。また、事前アンケートにも希望があった、「楽器や装束を間近で見たい」「楽器の演奏体験をしたい」との要望に応えるべく、雅楽の装束を着用して演奏を行い、実際の雅楽公演に近い形式で上演した。生の音色を聴く機会の少ない楽器・音楽であるだけに、児童・生徒の関心もより深いものであったと感じた。楽器体験では、コロナ禍であることを鑑み、「楽箏」「楽琵琶」などの弦楽器を用いた。どのようにして音が発音されるのか、演奏家はどのような工夫をしているのか、など、鑑賞だけでは感じることのできない部分にも踏み込むことができた内容であった。

「箏・尺八」は、箏、尺八、三味線の演奏家それぞれ1名、計3名に演奏を依頼した。「三曲合奏（箏、尺八、三味線による合奏）」の古典作品のほか、この編成で演奏できる流行曲も演奏し、楽器や編成の可能性を感じられる内容を構成し、楽器解説や質問コーナーも設けるなど、児童・生徒の関心に寄り添った公演を行った。古典曲の鑑賞では、楽器の音色や声色、各楽器の絡み合いなどに興味をもっている様子であったが、流行曲の鑑賞では、さまざまな制約がある日本楽器で多彩な演奏ができることに驚いている様子であった。

コロナ禍ということもあり、鑑賞人数や学年の制限がある中での開催であったが、センターと学校で綿密なやりとりを行い、無事に実施することができたのは何よりであった。一方で、実施時間の制約等により鑑賞曲や楽器解説に充分な時間を割けなかったところもあり、プログラムの検討については課題が残る。鑑賞の他にも楽器体験や資料を用いた内容を検討することで、日本音楽・楽器に対する関心や知識をより深められるものになるのではなかろうか。

来年度は、コロナ禍におけるさまざまな制約を鑑みた上で、派遣演奏家や学校との連携を密に取り、より充実した公演を提供できるよう取り組みを続けていきたい。

●パッケージD：授業等の補助

パッケージD「授業等の補助」のうち、邦楽系事業としては「D-5：和楽器指導」の1つの区分で募集を行い、本年度は三味線の指導を希望する中学校（1校）に演奏家を派遣した。音楽の授業に和楽器の体験を取り入れている学校で、演奏家を派遣する前に事前学習として数回の授業を行っており、生徒は楽器に対する基礎知識を身につけている様子だった。

授業は「楽器体験」「楽器紹介」「作品鑑賞」と、内容を大きく3つに分けて実施したが、学校からの要望もあり「楽器体験」に多くの時間を使った。日本古謡《さくらさくら》を題材に、楽器の構えから実際の演奏まで、3名の演奏家が生徒一人一人に寄り添って細やかな指導を行った。また、生徒1人に対して1挺の楽器（足立区の共用教材）が与えられ、授業時間を利用活用することができた。三味線は難易度が高く、体験教材として用いられることは稀であるが、今回は派遣演奏家に授業内容の検討を依頼したこともあり、実りある授業を行うことができたと感じた。

日本音楽はジャンルや楽器によって用いる道具や譜面がさまざまであるために、内容の検討が難しいと感じる点もある。今後は、学校や派遣演奏家との綿密なやりとりによって、より良いパッケージを提示していきたい。

（文：長谷川 将也）

アンケートより

- ・ 今日の演奏では音色がとてもきれいだと思いました。自分ではとてもできそうにありません。ミスもなく、もう一度聞きたいです。[A-1：箏・尺八／小6男子]
- ・ 雅楽を聞くことのできる貴重な体験、ありがとうございました。耳に響く奇麗な音色がとてもすてきでした。また聞きたいです。お話を出てきた「枕草子」や「古事記」、そしてその他の神話のお話もとっても面白かったので、くわしく調べてみようと思います。[A-4：雅楽／中1女子]
- ・ 雅楽はとても特徴的な曲が多くて、昔からの伝統を受け継いでいる感じがして、不思議な音色で聞いていてとても明るい感じがしました！ [A-4：雅楽／中2男子]
- ・ 三味線の糸を押さえるだけで音が変わることが勉強になった。[D-5：和楽器指導／中3男子]
- ・ 音楽を耳にすることはあっても、演奏している様子を生で見ることは、滅多にない。雅楽を鑑賞させていただき、ありがたい。楽譜を見ながら、歌唱する、拍をとる、というのも、貴重な経験であった。それぞれの楽器のつくりや特徴についても説明がわかりやすかった。聖徳太子もこの曲を聴いたのかということがわかり、歴史を感じた。[A-4：雅楽／小学校教員]

洋楽系事業 (鑑賞会・授業等の補助)

●パッケージB：洋楽の鑑賞会

パッケージB「洋楽の鑑賞会」では、例年とほぼ同様に「B-1：ピアノ」「B-2：声楽」「B-3：弦楽器」「B-4：木管楽器」「B-5：金管楽器」「B-6：打楽器」の6つの区分で募集を行い、11校（小学校9、中学校1、こども園1）で事業を実施した。

本年度は全体の実施件数が少ない中、「B-6：打楽器」に半数以上の希望が集まった。次いで「B-3：弦楽器」への希望が多かったことをみると、時世柄、歌唱や管楽器への抵抗感があったことも一因として考えられるのだが、それ以上に大きな理由として、コロナ禍において打楽器が児童にとって非常に身近な楽器となっていたことが挙げられる。歌唱や管楽器演奏に制限がある状況下で、音楽の授業では打楽器を活用する機会が増えているそうだ。事後アンケートの回答にも演奏技術や楽器に対するコメントが多く、例年以上に打楽器に対する児童の関心が高まっていることがうかがえる。

「B-6：打楽器」の鑑賞会は、マリンバやヴィブラフォンといった鍵盤打楽器を中心に、小物打楽器やドラムなどを取り入れ、参加する演奏家に合わせて編成や曲目が設定されたが、プログラム構成にあたっては、演奏家からの提案で児童たちが授業等で取り組んでいる楽曲を事前にリサーチし、サプライズ的に演奏する場面を設けた。楽器紹介でのほんの1フレーズであっても、自分たちが演奏したことのある曲を目の前でプロの演奏家が奏でる姿に、子どもたちが一瞬で引き付けられる様子がとても印象的だった。例年、実施校側から「子どもたちがよく知っているアニメの曲をやってほしい」といった要望が出ることが少なくないが、流行りの曲を取り入れるだけでなく、子どもたちの音楽経験をもとに曲目のアイデアを演奏家に提案していくことも積極的に検討していきたい。

本年度の鑑賞会の実施にあたっては、各実施校で参加者の密集を避けて実施できるよう対策を講じてもらう前提で、1校につき2回（2コマ連続）までの公演を可能とした。洋楽の鑑賞会についても、ほとんどの学校で参加者を入れ替えての2回公演を実施した。例年は1校につき1回の公演としていたため、全校児童・生徒が一堂に集まって実施することがほとんどで、位置によっては見づらい・聴こえづらいといった状況が発生してしまうことがあるが、今回は人数を制限せざるを得なかつたことで、演奏家との間隔は十分に保ちながらも、比較的近い距離で鑑賞してもらうことができたように感じる。演奏家にとっても、小規模開催だったのでマスク越しとはいえ子どもの表情やリアクションが確認しやすく、大人数の場合よりも進行させやすかったそうだ。学校の時程に合わせた2コマ連続での実施は、インターバルが短く、演奏家には負担がかかってしまうが、いずれの編成の公演においても、教育活動に理解と熱意のある演奏家たちの協力で、滞りなく実現することができた。

実施校側においても、本事業での鑑賞会の実施に向けてさまざまな工夫と対策が講じられており、「B-5：金管楽器」の鑑賞会を実施した小学校では、会場の体育館で鑑賞する学年を2学年ずつに制限する代わりに、体育館に入らない学年にはミーティングアプリを通じて教室のモニターに中継配信を行うことで、全校児童が鑑賞できるよう工夫されていた。会場前方に設置したタブレット機器からの映像によって演奏の様

子を間近に見ることができるだけでなく、演奏家の解説に担任の先生がモニターの横で補足説明を加えるような場面もあり、会場で聴くのとは一味違った楽しみ方が生まれていた。他の実施校でも、タブレットやパソコンを持った教員が会場にスタンバイし、会場に来られない子どもに演奏を届けている姿が見られた。本年度はどの学校でも、複数の学年が体育館に集まるこことすら難しいような状況であったが、実施校の先生方の尽力のおかげで多くの子どもたちに鑑賞してもらうことができたと強く感じる。

次年度も見通しの立たない状況はある程度続くことが想定され、鑑賞会の実施に際しては今後もさまざまな工夫と対策が必要になってくるだろう。実施校・演奏家の双方と丁寧なやりとりを重ね、最善の形で音楽を届けられるよう、取り組みを進めたい。

（文：西村 翼）

●パッケージD：授業等の補助

パッケージD「授業等の補助」のうち、洋楽系事業としては「D-1：歌唱・合唱指導」「D-2：器楽指導」「D-3：創作指導」「D-4：鑑賞指導」の4つの区分で募集を行った。

本年度は「D-2：器楽指導」として、小学校の器楽クラブでの指導を1件実施予定だった。児童もレクチャーを楽しみにしていたとのことであったが、東京都へのまん延防止等重点措置の適用に伴いクラブ活動が休止となり、残念ながら中止となった。当該校では昨年度にリズムアンサンブルと小物打楽器の映像コンテンツを利用しておらず、今年は「ぜひ対面で」との要望であった。タンバリンやトライアングル、ギロといった小物打楽器と、からだを使ったリズムアンサンブルの基本的なレクチャーを行ったあと、講師がマリンバで演奏する音楽に合わせて、児童がリズムアンサンブルを実践するという内容を予定しており、映像コンテンツをさらに応用した内容で行う予定であった。感染症の流行状況を見極めつつ、次年度も可能な限り柔軟に対応していきたい。

（文：杉山 まどか）

アンケートより

- ・ マリンバと打楽器でこんなに素晴らしい音色を出すことができるなんて、とってもおどろきました。そしてマレットの使い方にもおどろきました。片手にマレット2本をどうやって持って、どうやって動かすのかなと思いました。[B-6：打楽器／小6女子]
- ・ 楽器1つ1つが全く違う音で、初めてこんなに音色に集中して聴けました。この音はあの楽器が出している音で、この楽器はこの音を演奏しているんだなと初めてちゃんとわかるくらい聴きました。1つでも欠けたらあの音ではないんだなと思うと、4つで1つの音になるの、綺麗だと思いました。[B-3：弦楽器／中3女子]
- ・ 全ての楽器がそれぞれ主役になる曲目で音色の違いを楽しめました。リモートで教室で視聴している学級もありましたが、それも意識して楽器の見せ方を工夫して下さったりしたおかげで、教室でも十分楽しんで参加することができました。様々なご配慮頂きましてありがとうございました。[B-5：金管楽器／小学校教員]

金管バンド・吹奏楽の演奏指導

「金管バンド・吹奏楽の演奏指導」では、教育活動に適性と熱意のある本学出身の音楽家を講師として派遣し、基礎内容を中心とした専門的指導を実施した。対面での演奏指導には12校（小学校8、中学校3、小中一貫校1）からの申し込みがあったが、結果的に実施することができたのは8校（小学校4、中学校3、小中一貫校1）で、他4校はコロナ禍での活動制限等により対面指導の実施を全て見送る形となった。このうち3校は映像コンテンツの利用に切り替えての実施したが、1校からは辞退の申し出を受けた。

本年度は、全体の実施校数を鑑み、1校あたりの年間実施回数の上限をのべ18回までに拡大し（例：6パート×3回=18回）、実施パートと回数の組み合わせも実施校側で自由に希望を出せるようにした。また、希望する学校には対面指導と併せて年度内の映像コンテンツ（昨年度作成した楽器ごとのレッスン映像）の併用を認めた。中学校（および小中一貫校）での指導においては、この仕組みを生かして、各校の状況に応じた指導プランを計画し、実施することができた。パートを限定して重点的に指導を行うだけでなく、コンクールの演奏曲で一時的に兼任が必要となるハープやピアノの演奏指導や、指揮者による全体合奏の指導など、各校の提案や要望をもとに管・打楽器のパート別指導以外の内容も柔軟に取り入れ、自由度の高い指導プランを実現させた。

小学校での指導においては、全てのパートに等しい回数を振り分けて希望する学校がほとんどであった。例年、（小・中間わず）夏休みの期間を利用して短期集中で複数回指導を希望する学校が多いが、本年度は7～8月にかけて東京都に緊急事態宣言が発出されたため、この時期のクラブの活動そのものが縮小され、本事業での指導の実施も一度見送らざるを得なくなってしまった学校がほとんどであった。その後は感染状況を見極めながら延期や振り替えも含めて慎重に対応を進めたが、今夏の状況を受けて秋以降の実施の見通しも立てづらくなってしまった。平時の活動日が限られてしまう小学校のクラブ活動においては複数回の指導実施は難しく、結果的に実施できた小学校の多くで年間1回ずつ（のべ6～9回程度）の指導にとどまった。

活動制限等による実施日の設定の難しさだけでなく、昨年度から続くコロナ禍で、児童の側に楽器演奏をできない期間が長く発生していたことも、小学校での複数回指導が実現しづらかった背景として挙げられるだろう。打ち合わせの過程で「ブランクのある今の児童にとっては、長時間の指導や複数回の指導は負担が大きい」という声が教員からあがっており、実施校側としてももどかしい状況が重なっていたことが考えられる。本年度の状況をみると、次年度以降も活動制限等による諸課題と向き合わなくてはならないことが想定される。実施校の状況や要望を丁寧に聞き取ることとあわせて、指導を依頼する講師陣にも意見を仰ぎながら、柔軟なプランを提案できるよう検討を進めていきたい。

（文：西村 翼）

アンケートより

- いつもはサックスにくわしい先生がいないので自主練で知っていることしかできなかつたけど、サックスのプロの先生に教えてもらって、たつ人にはまだまだだけど、すこしはうまくなつたかなと思います。ありがとうございました。[小3女子（サクソフォーン）]
- もち方や呼吸のしかた、マウスピースなどをおそわった。おそわったことをいかしたら少しづつできるようになったから、またおしえてもらいたい。[小4男子（トランペット）]
- 先生の「たとえ」はすごくわかりやすくてフルートに関するたくさんのこと学べました。高音がすごく出にくかった私でもだいぶ出せるようになりました。本当にありがとうございました。[中1女子（フルート）]
- 約1時間のご指導でしたが、始めと終わりでは明らかに音色が変わっていました。また、先生方に教えていただいたこと（息の使い方、姿勢、練習方法など）をその後の日々の練習で生かそうとする姿が見られています。どのパートの先生方も子供たちにわかりやすく、具体的に指導してくださり、子供たち自身が自分でできるようになることを実感することができ、楽しく上達することができました。[小学校教員]

映像コンテンツの提供

本年度、映像コンテンツは「鑑賞あるいは授業等の補助」と「金管バンド・吹奏楽の演奏指導」の2つの区分で申し込みを受け付けた。以下、コンテンツの区分ごとに報告する。

●鑑賞あるいは授業等の補助

映像コンテンツを希望する学校は計14校（うち対面形式の中止による切替が2校）であった。実施校にはコンテンツのラインナップを計3回に分けて案内し、各回の枚数の上限を3枚までとして、申請を受ける形をとった。ラインナップは、昨年度のものに加え本年度新たに作成した6種類のコンテンツを追加し、「邦楽・洋楽の鑑賞」が26種類、「授業等の補助」が5種類の計31種類となった。

感染症の影響で歌唱活動などに制限がある中で、映像コンテンツを用いて鑑賞したり、リズムアンサンブル実践をしたり、和楽器に触れたりと、学校によって様々な工夫をして活用する様子がうかがえた。ある学校では、朗読付きの組曲《兵士の物語》（ストラヴィンスキー）を鑑賞する映像コンテンツを《魔王》（シューベルト）の学習で行うプレゼンの事前学習として用いたという。純粋に鑑賞するだけではなく、様々な用途で授業の補助教材としても活用できるというのが、映像コンテンツの利点の一つであろう。

●金管バンド・吹奏楽の演奏指導

映像コンテンツでの実施を希望する学校は、計7校（うち対面指導中止による切替が3校、対面指導との併用が2校）であった。コンテンツは、金管バンド及び吹奏楽で使用される13種類の楽器の指導映像が収録され、音を出す前の準備段階から日々の基礎練習までをカバーした内容となっている。対面指導と併用した学校もあり、限られた回数の対面指導に向けた事前学習として、あるいは対面指導後のサポート教材としても用いられた。講師の手元を映したカットなども含まれ、譜例や図示を交えた解説で難しいところは繰り返し視聴できるため、児童・生徒の学習の一助となっただろう。現在提供しているコンテンツは、楽器ごとに初級者～中級者用の内容を1種類にまとめているため、学習者のレベルごとにもう少し細かく対応できるよう、新たなコンテンツの開拓も検討したい。

今後感染症が収束しても、例えば対面での鑑賞会とコンテンツを併用する、授業の補助教材として用いるなど、引き続き活用できるよう取り組みを続けたい。

（文：杉山 まどか）

アンケートより

- 教科書等で文章で奏法を説明しているものより、実際に映像を見たほうが動きやコツがわかりやすかった。[和楽器のヒント：箏／中3女子]

・ コロナ禍において歌唱に制限があったため、こうしてリズムの理解を楽しく実践できたことがよかったです。身近な小物打楽器にも親しむことにつながりました。[器楽のヒント：リズムアンサンブル・小物打楽器／小学校教員]

【映像コンテンツ一覧】（★は本年度追加したもの）

■邦楽の鑑賞

- 和楽器の演奏：箏・尺八①
- 和楽器の演奏：箏・尺八②
- 和楽器の演奏：津軽三味線
- 和楽器の演奏：江戸の祭囃子
- 和楽器の演奏：獅子舞

■洋楽の鑑賞

- ピアノの演奏
- 声楽とピアノの演奏：テノール〈独唱〉
- 声楽の演奏：メゾソプラノ&バリトン〈独唱・二重唱〉
- 声楽の演奏：オペラ・オペレッタセレクション（メゾソプラノ&バリトン）

★声楽の演奏：声種の違いを感じ取ろう／声の重なりを楽しもう

★声楽の演奏：日本のうたで四季を味わおう

- 弦楽器の演奏：弦楽四重奏
- 弦楽器の演奏：ヴァイオリン／ヴィオラ／チェロ／コントラバス
- 弦楽器の演奏：ヴァイオリン名曲選

★弦楽器の演奏：ヴァイオリンロマンティック名曲集

- 木管楽器の演奏：フルート〈独奏・二重奏〉

- 木管楽器の演奏：オーボエ／ファゴット

- 木管楽器の演奏：サクソフォーン

- 木管楽器の演奏：クラリネット

★木管楽器の演奏：フルート／オーボエ／ピアノ名曲集

- 金管五重奏

- 打楽器の演奏：鍵盤打楽器アンサンブル

★打楽器の演奏：からだを使ったリズムアンサンブル

- 室内楽の演奏：物語と音楽

- 室内楽の演奏：踊りの音楽

- 口笛の演奏

■音楽科授業等の補助

- 歌唱のヒント：「ふるさと」を歌おう

- 器楽のヒント：リズムアンサンブル／小物打楽器

★器楽のヒント：ピアノ／ヴァイオリン／チェロについて知ろう・聴こう

- 和楽器のヒント：箏

- 和楽器のヒント：和楽器ってなんだろう？（楽器の紹介）

■金管バンド・吹奏楽の演奏指導

- トランペット／コルネットの基礎レッスン

- フレンチホルンの基礎レッスン

- アルトホルンの基礎レッスン

- トロンボーンの基礎レッスン

- ユーフォニアムの基礎レッスン

- チューバの基礎レッスン

- 打楽器の基礎レッスン

- フルートの基礎レッスン

- クラリネットの基礎レッスン

- サクソフォーンの基礎レッスン

- オーボエの基礎レッスン

- ファゴットの基礎レッスン

- コントラバスの基礎レッスン

教員研修

本年度は7月下旬に足立区立小学校の音楽専科教員を対象としたリコーダー指導法の研修会を予定していたが、緊急事態宣言の発出に伴い、対面での実施は見送ることとなった。研修会を中止する代替として、当日登壇を予定していた講師（本学出身のリコーダー奏者3名）によるレクチャー映像を作成し、それを各校の教員に視聴してもらう形をとった。映像はすべてDVDに収録し、小音研指定の基幹校を中心に11～2月の期間で回覧してもらった。

今回のレクチャー映像は、講師が子どもに指導する想定で作成したもので、「基本操作編」「鑑賞編」の2つの部分で構成されている。「基本操作編」では、リコーダーという長い歴史をもつ楽器の説明から始まり、「演奏する時の姿勢」「楽器の構え方」「息の使い方」「タンギング」の4つのポイントについて、実演を交えながら解説している。良い例だけを示すのではなくあえて悪い例も提示したり、クイズ形式で示したりと、子どもが楽しみながら理解を深められるような工夫がされている。また、息の使い方やタンギングについては、映像を見ながら講師の手本をまねて、繰り返し練習できるようになっている。楽器の操作は教科書の写真や文章だけでは理解しづらい部分もあるが、わかりやすい言葉と映像で簡潔に解説されており、教員側の指導法としても授業に取り入れやすい内容であるといえる。

「鑑賞編」には、楽器の紹介とリコーダーアンサンブルの演奏を収録している。楽器の紹介は、小・中学校で多く用いられるソプラノリコーダーやアルトリコーダーだけでなく、高音のソプラニーノやクライネソプラニーノ（ガーライン）、低音のテナーやバス、さらにはグレートバス、コントラバスといった大型の楽器まで、幅広い種類のリコーダーを扱っている。ここまで多くのリコーダーを一挙に紹介できる機会は滅多にないだろう。視聴した教員からも「映像資料として素晴らしい」という感想が多くあがった。なお、この映像の収録のために、トヤマ楽器製造会社から紹介用の楽器を提供していただいた。

リコーダーアンサンブルの演奏は、16～17世紀頃の音楽家の作品を中心に取り上げている。作品ごとに楽器の組み合わせが異なっており、響きの違いを楽しむことができる。ルネサンス期の作品は、子どもにとっ

ても大人にとってもよく知った曲であるとは言い難く、事後アンケートにはその点を懸念する感想もいくつかあったが、リコーダーが単なる教育用楽器ではなく、（「基本操作編」の冒頭でも解説しているように）長い歴史をもった西洋音楽の楽器であることを知つてもらう機会としては、意義ある内容であったと考えられる。

DVDを授業の中で実際に子どもに視聴させて活用した教員もいたようだが、3年生のリコーダー導入期とは少しずれた秋以降の提供であったこと、加えて回覧であったために短期間しか利用することができなかつたことから、「活用させきれなかつた」という声も聞かれた。次年度以降、年間にわたつて提供できる映像コンテンツとしての運用を検討してもよいのかもしれない。

（文：西村 翼）

アンケートより

- ・ 右手の親指と唇だけでリコーダーを支え、片足を浮かせてバランスをとるというのが、ゲーム感覚で児童に楽しく取り組ませられるなど勉強になりました。日々の指導に取り入れてみたいと思います。
- ・ さまざまな種類のリコーダーの実際の音を聞いたことがなかつたので、ありがとうございました。触発され、早速ソプラニーノリコーダーを購入しました。子どもたちにも紹介したいと思います。
- ・ クイズ形式など、児童の興味を促す場面があつてよかったです。3年生のリコーダーの導入だけでなく、鑑賞として高学年にも見せられるDVDでとても素敵でした。
- ・ リコーダーの種類を紹介する際、教科書にも載つていない種類の楽器も紹介されていたのが良かつた。基本的な演奏のしかたもわかりやすく解説されていてよかったです。このDVDが3年生のリコーダー導入期にあるととても効果的だと感じます。
- ・ 説明の中にクイズや問いかけがあり、子どもたちの思考を働かせるような内容だった。姿勢、座り方、もち方、息の使い方など、実際に演奏しながら見せていただいたのがわかりやすく、説明に無駄がなかつた。8種類のリコーダーの音色を紹介していただいた上にアンサンブルで音の重なりも味わえ、楽しませていただきました。

政策提言

2020年度の報告書では、「ネット環境を総合的に整備し、ICT教育を一層推進してほしい」という政策提言を行った。この課題解決に向けた足立区の取り組みが、かなりの成果をもたらしたことはまちがいない。昨年度と比較すると、学校間で格差はあるものの、全体としてかなりネット環境が整えられてきていることは実感できる。タブレット機器の普及がもちろん大きく、子どもたちや教員が使い慣れてきていて、学校生活に定着しつつある印象を強く受けている。このことは、教員の意識改革が大きく影響していると思われる。音楽科の教員でICT活用の優れたスキルをもつ教員はそれほど多くないと思われるが、チャレンジしようとする意欲とそれをサポートする学びの環境が大切である。教員研修等を通して、ICTを活用した音楽活動や指導法の提案、様々なツールの情報などを発信していきたいと考えている。

「ネット環境の更なる充実とICT教育の一層の推進」は、今回も引き続き提言としてあげたいと思うが、加えて、「楽器のメインテナンスの重要性」を提言しておきたい。と言うのも、指導やコンサートで行ったアーティストやスタッフから、学校で使われている楽器の状態が相当厳しいといった報告や指摘が数多くあがっているからである。もちろん新しい楽器を購入するにはかなりの予算が必要となり、長期的な計画でのぞまなくてはならない。ただ、仮に新しい楽器が入ったとしても、メインテナンスを怠るとたちまちのうちに楽器はひどい状態になってしまふ。音楽科の教員でも、すべての楽器の取り扱いに精通しているわけではない。楽器の取り扱い、メインテナンスの仕方などについて、これまで指導やコンサートに出かけたアーティストやスタッフがその場で気付いた点などは指摘してきたが、そのレベルでとどまらず、学校現場、行政、藝大とで楽器のメインテナンスについて協議する場を設けてほしいと考える。本プロジェクトとしても、来年度は楽器のメインテナンスをメインにした動画の作成などを視野に入れたい。

音楽学部教授 佐野 靖

足立区における多層的文化芸術環境の創造に関する調査研究

アートリエゾンセンター

[研究代表者]

杉本 和寛 音楽学部教授 言語芸術・音楽文芸 音楽学部長

[センター長]

佐野 靖 音楽学部教授 音楽教育 学長特命

[所属教員]

畠 瞬一郎 音楽学部教授 音楽文芸・応用音楽学

田村 文生 音楽学部准教授 音楽音響創造

～センター所属スタッフ～

[研究員]

西村 翼 音楽教育・ファゴット

深水 悠子 音楽音響創造・作曲

[教育研究助手]

杉山 まどか 音楽教育・ヴァイオリン

長谷川 将也 邦楽・尺八都山流

報告書編集：西村 翼

東京藝術大学音楽学部アートリエゾンセンター

〒120-0034 東京都足立区千住1-25-1 東京藝術大学音楽学部千住キャンパス

Tel : 050-5525-2744 Fax : 03-5284-1575

令和4年3月31日 発行